

宮崎県中学校体育大会軟式野球競技（令和6年度版）

特 別 規 定

【競技を行うにあたって】

- 1 1チーム9名からの参加を認める。
 - 2 ベンチには登録された監督・コーチ・選手以外は入れない。
 - 3 外部指導者及び部活動指導員のベンチ入りは県中体連評議委員会において承認された者に限る。またベンチ入りに際しては、県中体連のプレートを付け、試合終了後は本部へ返却する。
 - 4 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督は選手と同じユニホームを着用し、背番号30番をつける。
 - (2) コーチは選手と同じユニホームを着用し、背番号29番・28番をつける。または、平服に選手と同一の野球帽とする。ただし、ノックを行う場合にはユニホームを着用して行う。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合には大会本部の許可を得る。
 - (4) シューズについては、選手と同色のアップシューズまたはスパイクとする。
 - 5 選手、監督等のユニホームの着用について
 - (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませず、ベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
 - (2) ユニホームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
 - (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。
 - ③ 選手によってミドルカットやローカット、紺や黒等が混在しないようにチームで統一する。
- (公財)全日本軟式野球連盟規定細則には、「ユニホームの長さは両袖統一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規定はしない。
- 6 選手の背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
 - 7 選手は医療を目的としたサポーター等の使用は認めるが、強化目的の使用は認めない。
 - 8 選手はテーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
 - 9 選手はサングラスを使用しない。ただし、選手の健康上の理由及び球場の条件によって大会本部で協議し認める場合もある。
 - 10 野球用の手袋は「打者」「走者」「投手以外の守備」に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。色は白・黒の単色とする。
 - 11 レッグガード・エルボーガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
 - 12 リストバンド・リストガードは使用できない。また、サポーター（手首や指を固定、保護する目的の物）の使用は医療目的に限り、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
 - 13 滑り止めスプレーの使用を禁止する。
 - 14 マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
 - 15 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
 - 16 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを設定することもある。
 - 17 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、速やかに位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニホームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
 - 18 4回終了後及び7回終了後に給水タイム（5分程度）を設ける。また、5回表及び8回表（タイブレーク方式の1回表）の投手の準備投球は3球とする。
 - 19 雨天・日没等により試合続行不可能（5イニングで試合は成立）な場合は翌日再試合を行う。中断・再試合等の判断については、選手の健康上の管理も含めながら会場責任者及び審判員の意見を十分に考慮し、県中体連事務局と大会本部の合議で決定する。
 - 20 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
 - 21 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
 - 22 試合開始・終了の礼は両チームが同時に行う。
 - 23 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
 - 24 各チームの監督またはコーチは、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

- 25 応援団については監督が責任をもつ。
- 26 応援団は次のことを守って応援をすること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいだくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援は認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - (4) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (5) メガホンを使用してもよい。
 - (6) 笛（ホイッスル）は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に、笛で盛り上げることをないようにする。
 - (7) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (8) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。

【試合開始前】

- 27 監督に引率されたチームは、試合開始1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議しその対応を決定する。
- 28 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前、第2試合以降は前の試合の4回終了時とする。ただし、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、試合開始予定時刻の20分前とする。監督と主将は打順表を5部（本部・審判・放送・相手チーム・自チーム）持参し、登録名簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。
- 29 シートロックは行わないこととする。
- 30 第1試合は攻守決定終了後、第2試合以降はベンチの入れ替え後すぐに審判員または大会役員による服装・用具点検を行う。
- 31 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないように球場内のブルペンを使用する。服装は試合用ユニホームとし、捕手は捕手の装具を全て着用する。
- 32 勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合、2試合目の開始時刻は、1試合目終了から40分後を原則とするが、天候によっては大会本部で判断することもあるのでこの限りではない。
- 33 第1試合前のアップ時の服装については、試合用のユニホーム（背番号付き）を着用すること。ただし、天候等で選手の健康面に配慮する場合についてはこの限りではない。

【試合中】

- 34 選手交代の申し出は、監督が行う。
- 35 ベンチ内でのメガホンの使用は、監督に限る。
- 36 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 37 グラブのひもの長さは危険防止のため親指の長さ程度とする。
- 38 捕手の装具は連盟公認のマークのついたものを使用する。ヘルメット及びマスクはSGマークのついたもので、マスクについてスロートガード一体型の場合は、スロートガードをつける必要はない。
- 39 ヘルメットはSGマークのついたもので、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護スチロールが外れるもの、保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。
- 40 攻守交代時の代理捕手は、必ず捕手用ヘルメット・スロートガード付きマスク・プロテクター・レガースを着用する。なお、ファールカップの着用が望ましい。
- 41 試合中の球場内では、次打者以外は素振りをしてはいけない。
- 42 投手（救援投手を含む）の準備投球は初回に限り、7球以内（1分を限度）が許される。次回からは、3球以内とする。ただし、球審が状況を考慮する場合もある。
- 43 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、大会中の1日の投球数は100球とする。試合中、100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するか攻守交代するまで投球できる。なお、悪天候等により当初の日程に変更が生じた場合にも同様とする。
- 44 監督が投手のところに行く回数の制限について、「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合や、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 45 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「44」と同じ行為であれば回数に数える。